

小諸東中学校 学校だより

令和4年11月2日



本年度の後期が始まりました

10月21日に、前期終業式及び後期始業式がありました。各学年の代表生徒が、「前期を振り返り」とともに「後期への抱負」を発表してくれました。

<1年1組 大塚 心陽 さん> 前期を振り返って

これから始まる中学校生活に心を弾ませていた四月からあっというまに半年が過ぎて、前期もう終わりになります。そこで、私は前期を振り返ってみました。

前期では、色々なことを経験しました。この前の白梅祭も、とても楽しかったです。皆で力を合わせてやり切った体育祭、クラスや学年で団結して声を合わせた音楽祭などとても心に残っています。あまり沸いていなかった「自分は中学1年生なんだ」という実感を強く感じた二日間でした。

もう小学生ではないんだと思った出来事がもう一つあります。初めての部活動、初めての楽器に触れて、「これで自分も吹奏楽部員の中学1年生なんだ」と思い、喜んだのを覚えています。吹奏楽部に入って、私はたくさんのことを経験しました。夏のコンクールでは、私はサポートメンバーとしてコンクールメンバーを支えました。私はそのサポートメンバーのリーダーになりました。なりたての頃は、一人で色々動いてしまって上手くいかないことがありました。その時、仲間の一人が「一人で抱え込まないで」と言ってくれました。そのおかげで私は仲間と協力する大切さを学びました。他にも先輩方、先生、仲間、演奏などからたくさんのことを学びました。そして、色々な大会に行き、色々な経験をして、私は自分に自信が持てたような気がしました。このあいだ行われた白梅祭で3年生の先輩方が引退され、今月末行われるコンクールには私もステージに上がることになりました。だから、後期では、今までお世話になった先輩方に恩返しができるように、部活動に一生懸命取り組みたいです。勉強もしっかり両立させてあと半年でメンバーがかわってしまう1年1組の皆と後期も頑張りたいです。

<2年1組 甘利 来夢 さん> 前期の振り返りと後期の抱負

2年生の前期を振り返ってみて、自分が成長できたこととして、一番に思い浮かぶのが、みんなのために動けるようになったことです。

僕は、1年生のクラスでも、2年生で今のクラスになってからもルーム長を務めています。1年生の頃の自分を振り返ると「ルーム長」とは言いながらも、あまりクラス全体のことが見えておらず、どこか「自分のため」に動いている自分がいました。そんな僕がかわるきっかけになったのは、5月の頃のある出来事です。僕は、目先の楽しいことを優先してしまい、軽い気持ちでいろいろな人に迷惑をかけてしまったことがあります。そんな時、先生方や友達から、いろいろなアドバイスをもらい、迷惑をかけてしまった人たちも、あたたかく受け止めてくださり、あらためて自分の考えが狭かったことに気づき、皆の役に立てることをしようと思うようになりました。例えば、朝早く来て窓を開けたり、机をそろえたり、ゴミを拾ったりするなど、身近なことから皆の役に立てることを始めました。

前期は、様々な行事がありましたが、その時にも皆の役に立てることを一番に考えて動くようにしました。7月に行われた飛騨高山宿泊学習では、統率係として、皆が次の行動に素早く移れるように呼び掛けたり、他の係の呼びかけに応じて率先して協力したり、宿舎では、部屋の掃除や館内に落ちている小さなゴミを拾うなども行うように心がけました。白梅祭でも、皆で考えた目標をどうしたら叶えられるか、ルーム長としてクラスのために何ができるかを、家に帰ってからも真剣に考えている自分がいました。

こんなふうに、「みんなのために動くこと」を意識するようになってから、気づいたことがあります。それは、「みんなのために」と思って動く、一緒になって協力してくれる仲間が増えるということと、物事がとても楽しく感じられるということです。皆のために何かをしていると「来夢、ありがとう」と声をかけてくれる友達があります。「一緒にやろう」と手を貸してくれる友達もいます。僕は、「みんなのために」と思い動いていたはずなのに、僕のために力を貸してくれる仲間の存在に気づくことができました。

先日、3年生の先輩方3名が、2学年集会にお越しくださり、生徒会引継ぎに向けてのお話をしてくださいました。3年生の皆さんが「全校のために」と思ってたくさんの努力をしてくださったことを、ほんの少しですが知ることができました。もうすぐ僕たち2年生が3年生から生徒会を引き継ぎます。これまで「クラスのために」「学年のために」動けるようになった自分ですが、さらに視野を広げて、これからは「全校のために」動ける自分になっていきたいと思えます。

<3年1組 池田 龍生 さん> 前期を振り返りと後期の目標

僕の中学校生活最後の前期の4月は、入院から始まりました。腰の骨折のため入院していました。学校が始まったと連絡があり、担任の先生が病院に来てくれました。病院に来た時、NRT テストとそのため必要なものが届き、衝撃的な前期のスタートでした。4月中旬に退院をしていよいよ学校生活かなと思ったら、全国学力・学習状況調査があり、またテストでした。5月に入り、第1回定期テストがありました。分かってはいたけれど、受験生であることを思い知らされました。

6月に入り、進路希望調査が配られ、どの学校を選べばいいか本当に迷いました。与えられた自由の重さを痛感しました。悩んでいるうちに第2回定期テストがやってきました。テストの結果を受けて7月下旬に三者懇談がありました。自分が本当に行きたい高校と現実と成績だけでなく通学方法も含めて考えました。とにかく夏休み中に得点力を上げることはすべきこととして分かったので頑張りました。

夏休みが終わると修学旅行に行きました。長野県とは違うスケールで触れる修学旅行はとても意味のあるものでした。その興奮も冷めやらぬ中、第1回総合テストがありました。あっという間に受験生モードに戻りました。9月中旬には第2回総合テストがありました。白梅祭で盛り上がりました。しかし、つい先日に第3回総合テストがありました。

このように書くと、中学校3年生の前期はテスト地獄のようですが、毎日は楽しいです。なぜならクラスの仲間と乗り越えていけるからです。現在は部活動も終わり、生徒会も引継ぎに向けて動いています。僕たちの所属するのがクラスと学年しかなくなります。だからこそ、後期は自分だけでなくクラス・学年での生活をとても大切にしていきたいと思います。1. 2年生の皆さん、中学校3年生に向けて勉強を頑張ってください。僕たち3年生も進路実現に向けて頑張ります。

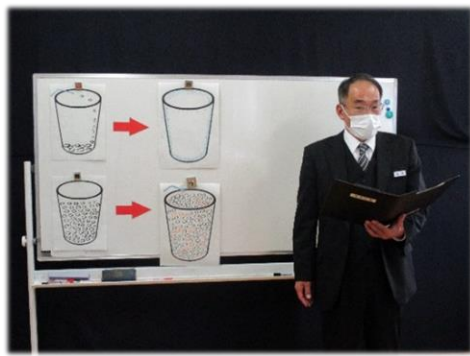
3名の生徒の発表に続けて、滝澤校長先生より、次のようなお話がありました。

始めに、2年ぶりに各学年の生徒の皆さんの発表がありました。それぞれの前期の振り返りと後期に向けての抱負を、自分の言葉で語ってくれました。ありがとうございました。

私からは、8月31日の校長講話で話をした「空の二つのコップ」の続きを話します。8月31日は、まだ日中の気温が30度を越えてとても蒸し暑さの残る中で話をしたことを覚えています。それから約2ヶ月。季節も進み、昨日の朝は霜が降りていました。

さて、2か月生活していく中で、皆さんのコップの中にはどれぐらいの米粒（小さな目標）がたまっただけでしょうか。半分ぐらいの人もいますか。あるいはコップがあふれるくらいたまった人もいますか。もしかしたら、ほとんどたまっていない人もいますか。もし、コップがいっぱいになった人がいたら、**その器を少し大きくしてみてください**はどうでしょうか。さらに、たくさんの目標や経験が入るようになっていきます。また、「自分らしさや自分の特徴を伸ばす」などの自分自身のこともそうですが、「人に対する優しい気持ちや、困っている人に進んで声をかける」など、**周囲との関係性において、自分以外の周りの人に心を配っていくことを加えてみてください**。

後期は、1. 2年生は、生徒会の引継ぎや進級、新入生の受け入れ準備。3年生は、自分の進路実現に向けてさらに力を伸ばしていく時期を迎えます。**小さな目標を一つひとつ乗り越えるごとに、器を少しずつ大きくしていくことで、自分自身を成長させていってほしいと思います。小さな一歩の積み重ねです。**



<お知らせとお願い>

○過日ご案内した通り、11月10日（木）は第3回授業参観日です。授業参観及びPTA 人権同和教育講演会、学年学級PTAが計画されています。次の点についてお願いします。

- ・新型コロナウイルス感染防止の観点から、「各家庭1名」の来校をお願いします。
- ・来校の際は、必ずマスク着用をお願いします。また、受付に別紙「健康チェックカード」の提出をお願いします。（本日配付しました）
- ・駐車場については、校庭の一部を利用できますが、駐車スペースに限りがありますので、できる限り、徒歩、自転車等でお越しください。なお、普段通り、プール横の道路を通り、東側（給食室側）から西側へ一方通行をお願いします。
- ・下駄箱については、スリッパ等をお持ちいただき、生徒玄関をご利用ください。
- ・今後の状況の変化によっては、変更が生じる場合もあります。ご理解とご協力をお願い致します。

（小諸東中学校 教頭 友野裕一）